

## 膵癌に対する術前治療における腫瘍マーカーの臨床的意義についての検討

### 1. 研究の対象

本研究参加施設において2011年1月から2020年12月までの10年間に、術前治療の後に手術を施行された膵癌の患者さんを対象としています。

### 2. 研究目的・方法

膵癌の治療成績の向上には、外科的切除に術前・術後の化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療が必須であり、また術前治療後の再評価が適切な治療選択を行う上で重要です。しかし、術前治療を施行した膵癌患者さんにおける腫瘍マーカー(CA19-9, DUPAN-II等)の有用性はまだわかっておらず、最適な治療選択の確立については未だ解決すべき課題が多いです。そこで今回、多施設共同研究にて症例を集積し解析することによって、術前治療を施行した膵癌患者さんにおける腫瘍マーカーの治療成績に与える影響を検討し、その臨床的意義について検討することを目的として、本研究を行うこととしました。

研究期間：主任研究機関(大阪大学医学部附属病院)の倫理審査委員会承認後から2024年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料を研究に用いることはありません。患者情報としては以下の通りです。

- 1) 患者基本情報(性別, 年齢等), 手術前後の治療内容, 画像所見, 臨床検査値, 周術期の腫瘍マーカー値
- 2) 手術に関する情報(手術内容, 手術日, 手術時間, 出血量, 術後合併症等)
- 3) 腫瘍に関する病理学的情報(術後病理組織診断等)
- 4) 生命予後に関する情報(生存期間や生死等)

### 4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、各施設で保管・管理しますが提供された情報は当施設で新たに対応表を作成し研究責任者が保管・管理します。

### 5. 研究組織

<代表機関>

大阪大学医学部附属病院 消化器外科

研究責任者：大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 教授 江口英利  
研究分担者：大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 講師 高橋秀典  
大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 大学院生 宮原智

< 共同研究機関 >

大阪国際がんセンター：肝胆膵外科長 和田浩志(研究分担者)  
消化器外科副部長 秋田裕史(研究分担者)

6. 問い合わせ先

大阪国際がんセンター消化器外科 肝胆膵外科長 和田浩志  
大阪国際がんセンター消化器外科  
膵臓外科・多施設研究管理室シニアアドバイザー 高橋秀典  
〒541-8567 大阪府中央区大手前 3-1-69  
TEL: 06-6945-1181 FAX: 06-6945-5099

試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、上記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。